

絵本を読む 1

ゴリラとの真夜中のデートーブラウン『すきですゴリラ』



『すきですゴリラ』表紙

(Drawn by Hinako Fujimura)

絵本は子どもだけのものではありません。大人が楽しめる絵本がたくさん出ています。もちろん子どもといっしょに楽しめる絵本もたくさんあります。アン
トニー・ブラウンの『すきですゴリラ』(1983年)は、そんな絵本のひとつです。

物語は、父親と二人で暮らす女の子の話です。ハナはゴリラが大好きです。ハ

ナのお父さんは仕事がいそがしくて、ハナの相手をしてくれません。そんなお父さんでも、ハナの誕生日の前の夜、ゴリラのぬいぐるみをプレゼントしてくれました。でも、小さな普通のぬいぐるみです。ところが、「まよなかって、ふしぎなことが おきるでしょう」。

なんと、そのゴリラのぬいぐるみがだんだん大きくなって、りっぱなゴリラになったのです。ゴリラは、夜中に目をさましたハナの前でほほえみます。そして、「これから どうぶつえんに いってみよう、なんてのはどうかな」と、ハナを誘うのです。ゴリラの笑い顔がすてきななので、ハナはちっともこわくありません。

ゴリラはお父さんのぼうしをかぶり、お父さんのコートを着て、ハナといっしょに動物園に行き、映画を楽しみ、レストランでバナナとクリームパフェを食べ、家に帰って庭でおやすみのダンスをします。

その次の朝、ハナがゴリラとの真夜中のすてきな体験を話そうとすると、お父さんは、「たんじょうび、おめでとう。これから どうぶつえんに いくなんてどうかな？」と誘ってくれたのです。そして、「とっでもしあわせな」ハナとお父さんの後ろ姿で終わります。

ブラウンの絵本では、絵の背景からも目が離せません。表紙の背景にも、おもしろい絵が描かれています。この絵本が描かれた 1983 年頃の親たちにとってゴリラの代表は、ハリウッド映画「キングコング」のゴリラでした。表紙の背景では、遠くで、そのキングコングがビルの上で暴れています。

絵本の中でも背景にモナリザやチャップリン、ジョン・ウェイン（アメリカの

映画俳優)、チェゲバラ (キューバの革命家)、スーパーマン、自由の女神など有名な人や像がゴリラとして登場します。

この絵本の中で、ハナが食べる場面が 3 つあります。はじめはいそがしいお父さんとの朝食の場面、次はゴリラとのレストランでの夜食の場面、3 つ目は、お父さんと誕生日のケーキを食べる場面です。それらの絵の全体的な色調に注意してみると、はじめの朝食の絵はブルーが多くて、冷たい感じがします。それに対して、2 つ目と 3 つ目の場面では壁紙やテーブルクロスの色が明るく楽しいです。お父さんの服も、1 つ目の場面では濃い青のスーツだったのに対して、3 つ目ではハナの服と似た色の赤のセーターです。

このように、絵本では絵のもつ力で、登場人物たちの気持ちを表すことができるのです。色調だけでなく、絵の構図からも登場人物の気持ちが読み取れるような場面があります。例えば、ハナが寝るときのベッドの格子は、なんだか動物園のオリの格子のようなのです。

絵本をぱらぱら見ながら、文字が表すストーリーだけでなく、絵が表すストーリーも楽しみましょう。

(1240 字)

(2020.4 Written by Masami KADOKURA)

<参考資料>

- ・アントニー・ブラウン『すきですゴリラ』（あかね書房、1983年）

★ブラウンの絵本をあと2冊、紹介します。

- ・アンソニー ブラウン『こうえんで…4つのお話』（評論社、2001年）
- ・アンソニー ブラウン『森のなかへ』（評論社、2004年）



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.